

試料・情報利用研究計画書(概要)

審査委員会 受付番号	2022-2005	利用形態	内部研究			
研究題目	周産期うつ病の新たな病型分類の開発と遺伝的要因の解明			研究期間	2022年11月～2025年11月	
代表研究機関	東北メディカル・メガバンク機構	責任者 氏名・所属・職	栗山 進一	東北メディカル・メガバン ク機構	教授	
分担研究機関	-	責任者 氏名・所属・職	-	-	-	
研究目的と意義	<p>周産期のうつ症状は必ずしも同様ではないため、発症時期、年齢などの基礎特性、カルテデータ、生理検査データ、生化学検査データを用いて、新たに病型分類を整理し、発症メカニズムを解明して、お子さんへの影響や遺伝的な背景をよりの確に見れるようにすることを目的としている。</p>					
研究計画概要	<p>本研究では三世代コホート調査に参加している対象者さんのうち、参加時に妊娠されていた約20,000人を主な研究の対象とします。K6や Edinburgh Postnatal Depression Scaleという抑うつの質問紙を妊娠中と産後に実施し抑うつ症状の発症時期を特定します。また年齢などの基礎特性、妊婦健診のカルテデータ、生理検査データ、生化学検査データを用いてさらに詳細な病型の分類を行います。それぞれの病型における児への影響をすでに回答いただいている質問紙 (Child Behavior Checklist など) で評価します。またゲノムワイド関連解析などの遺伝子解析を用いて、周産期のうつ症状のリスクとなる遺伝子変異を解明します。さらに三世代コホート調査と地域住民コホート調査の参加者150,000人を対象に解析を行い、月経前症候群等の遺伝的要因を明らかにし、周産期うつとの遺伝的な関連を明らかにします。その後UK biobank (イギリスのデータベース) を用いて同様の解析をし、結果が同様であることを確認します。</p>					
利用試料・情報	<p>対象: 東北メディカル・メガバンク事業参加者 全員 試料: なし 情報: 基本情報、調査票情報、検体検査情報、生理機能検査情報、カルテ転記情報、ゲノム情報 (SNPアレイ)、メタボローム情報</p>					
期待される成果	<p>うつ症状の分類との関連を検討することで、遺伝的リスクに応じた抑うつ症状の変遷をとらえることが期待されます。</p>					
倫理審査等の経過	<p>2022年11月 東北メディカル・メガバンク機構倫理委員会承認</p>					
倫理面、セキュリ ティー面の配慮	<p>利用する試料・情報は、東北メディカル・メガバンク機構の定めるセキュリティポリシーにより管理されます。遺伝情報を含む個人を特定する可能性のある情報は東北メディカル・メガバンク機構のスーパーコンピュータ内で管理されます。本研究では、UK Biobankから情報の提供を受けて研究を行います。</p>					
その他特記事項	<p>大学運営費交付金</p>					
	<p>※公開日 令和4年12月7日</p>					